

ポストコロナを見据えた 地方国立大学の役割 ～ 存在意義と機能強化 ～

一般社団法人国立大学協会 副会長
国立大学法人 金沢大学長
山崎光悦

令和2年5月22日（金）

目 次

1. 我が国を取り巻く状況と地方国立大学の存在意義	．．．．．	P 1～
2. ポストコロナを見据えた地方国立大学の機能強化に向けた取組	．．．．．	P 4～
① プラットフォームの構築		
② イノベーションの創出		
③ 人材育成		
④ 戦略的な経営・運営改革		
3. 地方国立大学の機能強化に係る支援や規制緩和の提案	．．．．．	P 19～

国立大学に期待される機能

我が国を取り巻く状況

≪世界的に≫

- ☞ Industry4.0・Society5.0と称される
情報科学技術の飛躍的進展
- ☞ 地球規模での社会・経済・科学技術等、
社会システムが変革 等

≪我が国では≫

- ☞ 少子高齢化と人口減少の進行
- ☞ 我が国の国際競争力の低下
- ☞ 政治・経済・文化・産業などの社会資本、資源（人）が過剰に東京圏に集中



- ⇒ 高度知識基盤社会を支える**知を継承**し、かつ継続的に**新たな知を生み出し**
またそれを牽引する**人材の育成**が重要（THE世界ランキング1400に米国に
次いで国立57大学が、QS世界ランキング1000に国立30大学がランクイン）
- ⇒ 社会活動の傾斜的な集中により発展してきた**成長モデルの転換**が必要

さらに **コロナショック**

- ・世界的な感染拡大
- ・東京一極集中による問題の顕在化
- ・デジタル革命の急速進展
- ・医療崩壊のリスク
- ・働き方の急速な変革
- ・経済危機

ポストコロナを見据えた**国立大学に求められる役割**

“社会変革のエンジン”としてイノベーションの先導
知識集約型社会をリードするためのハブ

我が国や世界の**“現状・課題を再認識”**した上で、**“未来社会を予測”**し、
「多様な価値観を持つ多様な人材が集まり、新たな価値が創造される場」としての機能の最大化

特に、**地方国立大学**に求められる役割・存在意義は？

ポストコロナを
見据えた

地方国立大学の存在意義

これまで、世界水準の研究力を核に、
地域特性に応じた地方創生・イノベーションハブとして人材を集積・育成

公立大学との違いは？

公立大学：設置者 自治体等、比較的小規模
地域ニーズに特化した地域密着型

地方国立大学：適正な規模・配置で地域社会，地方都市の核を形成
特色ある世界水準の研究力を背景にグローバル人材育成を実践
地域産業，地域政策のシンクタンク機能

Q. ステークホルダー（社会，企業，自治体，住民等）の期待

A. 地方国立大学の特色である多様な分野での“知”の社会還元

- 地域の教育・産業・医療を担い，地域経済・地域社会を支える人材輩出
- 地元定着を目指す若者の受け皿 ●企業との共同研究 ●研究成果の社会還元
- 地方中核都市形成の核 ●自治体からの教育研究環境整備に係る投資 等



ポストコロナを見据え「知」「人材」「資源」の分散
東京一極集中の是正 に向けた 地方国立大学のあるべき姿

地方国立大学でなければ担えない役割は？

- ・世界水準の研究力を核に，地域特色を活かした経済の活性化，地方創生，復興に向けた研究展開
- ・世界的視野を保ちつつ，地域に根差し，地方におけるイノベーション創出を担う人材の育成

“一極集中是正に向けた地方創生”

“我が国の持続的発展のための社会・産業構造変革”

地方国立大学の機能強化が重要

この認識の下，各地方国立大学において自主的・自律的に大学改革を展開しているが，

個々の大学や地方の特性に応じた個性的かつ戦略的な **さらなる大学改革の加速**による **機能強化が急務**

地方国立大学に求められる機能強化

㊦ 世界水準の研究力を核に、地域の特色を活かした経済の活性化、地方創生、復興に向けた研究展開

- ① 様々な機関・組織が総力を挙げて協働し、社会変革・地方創生を行うために
⇒ 地方に立地する“知”の拠点として“プラットフォームを構築”し、その中核を担う必要性
- ② 社会変革・地方創生を先導するために
⇒ 世界と地方との“知”の還流を促し、地域特性や特色・強みを活かした先進的な研究をさらに強化し、“イノベーションを創出”する必要がある。

㊦ 世界的な視野を有しつつ、地域に根差し、地方におけるイノベーション創出を担う人材の育成

- ③ 自主的・自律的かつ、持続的な社会変革・地方創生のために
⇒ 社会変革・地方創生を担う恒常的な“人材の育成”や人材の集積が最重要であるという認識の下、イノベーションを創出するとともに、生み出された新技術や社会システムを使いこなすための分野融合型教育、STEAM教育、地域ニーズに即した教育を充実する等、大胆な教育改革を行う必要がある。

㊦ 研究展開・人材育成に向けた経営・運営

- ④ 社会変革・地方創生に向けた研究展開・人材育成を持続的に行うために
⇒ 新型コロナの蔓延等、社会が大きく変動する中、学長のリーダーシップの下、中長期的な視点により、これまでの枠組みを超えた大胆な“戦略的な経営・運営の改革”が必要である。

※ 地域が有する歴史・文化・風土等を地方創生に最大限活用。コロナ禍において大学病院が地域医療の最後の砦に！
高度医療人材の育成や診療等のAI化・ICT化等、その機能強化が急務！

ポストコロナを見据えた 地方国立大学の機能強化に向けた取組

①プラットフォームの構築





機能強化に向けた金沢大学の先導的な取組

金沢大学における中長期的ビジョン《知・人材・資源の流動・集積》の下、計画的にスピード感のある社会共創に資する大学改革を展開

イノベーションハブ

先端科学・社会共創推進機構【平成30年度設置】

企業、自治体とのパートナーシップの構築に係る戦略的なマネジメント態勢を実現

プロジェクト戦略室

総合マネジメント部

- ・学術研究推進グループ
- ・社会共創推進グループ
- ・国際連携推進グループ
- ・人材育成グループ
- ・法務知的財産グループ
- ・総務・広報グループ
- ・教員・URA・事務職員を複層的に配置

担当者を定め支援

社会共創プラットフォーム

先端学術研究クラスター	研究成果の社会還元・社会実装を見据えた優位性のある研究プロジェクトを推進
産学・域学連携クラスター	民間企業、研究機関、自治体等との連携による経済活動・社会活動の活性化プロジェクトを推進
オープンイノベーションクラスター	大学が選定した未来社会課題に係る他機関との連携プロジェクトを推進
国際連携共同研究クラスター	海外の企業や研究機関との共同研究・連携プロジェクトを推進
人材育成・生涯学習クラスター	アントレプレナー教育や学内外の多様な受講生に対する地域振興を支えるプロジェクトを推進

北陸未来共創フォーラムの設立

第1次産業～第3次産業の多様な業種が連携し大学の知を活用したイノベーションを創出する仕組みを構築



多種多様な業界の会員が参画

フォーラムの主催
金沢大学
アドバイザーを配置

課題に対応したテーマ別サロン（講演会・交流会）で情報集積、課題抽出、新技術・商品・サービスを検討

観光・交流人口	スマート農林水産業	モビリティ
人材育成・確保	環境・エネルギー	健康・予防医学

金沢大学との共同研究 アイディアを形に！ 会員企業間の共同開発

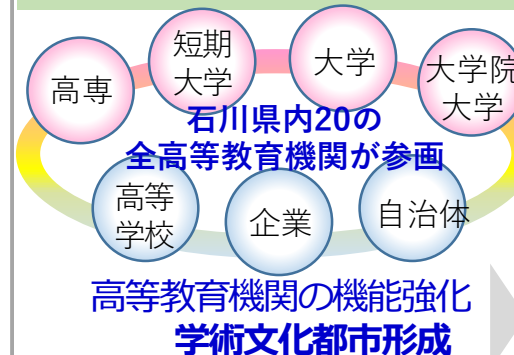
オープン・イノベーション

技術・商品・サービスの開発、社会実装

北陸を中心とした地域の持続的な発展を推進

大学間連携

大学コンソーシアム石川を核とした広域連携モデルの構築



多様な教育プログラムが実現

シティカレッジ単位互換 ホームステイ型フィールド実習 トビタテ！留学JAPAN「地域人材コース」石川プログラム 産学官連携によるインターンシップ 等

インターンシップフェスに
県内学生約1,000人が参加

人口あたりの学生数 全国3位
人口あたりの学校数 全国2位
受験者人口（18才）流動（H28）
流入率114%



共同教育課程

大学院先進予防医学研究科先進予防医学共同専攻

金沢大学、千葉大学、長崎大学の3大学により編成

“地域独自性の実態”と“サイバー空間での集中化”の共存を実現

- ・所属大学における対面型と講義室以外で受講するVOD（オンデマンド型）との複合型の講義形態を構成
- ・ヘルシーシティーズ・都市部コホート実習、離島コホート実習、過疎地コホート実習

北陸国立3大学が持つ理工のリソースを活用した研究拠点形成（構想中）

大学間連携により、次世代通信技術開発等、複数の新たな研究所を構想
新研究所をベースとした大学院レベルの共同教育課程の編成も視野

地方国立大学の新たな挑戦

多様な卓越した研究力と地域資源を活用した教育力をベースに、企業・教育機関等と強固に連携し
地域特性に応じた「地方から社会を変革する」取組みの中核を担う



機能強化に向けた金沢大学の先導的な取組

スマートシティ

ICT技術を活用した遠隔教育の実践

コロナショック

2020年4月

本学独自の学修管理システム等を活用し、全面的に遠隔授業を実施

ポストコロナを見据え、ICT技術の活用に関する全学的な実施体制と確かな実績をもとに、ICT技術を活用した「育み支える教育」を実践すると共に、我が国におけるスマートシティ構想を先導する

コロナ禍中において、来日できない留学生に対する遠隔授業による教育効果が絶大

2006年以來の
全学生パソコン必携を核に
アカンサスポータル*「WebClass」活用
・学内Web上に設置された
学修管理システム
・授業資料の掲載、テスト実施、
レポート回収等

*アカンサスポータル
本学独自の統合型学修支援
ポータルサイト

スマートシティ構想（金沢市・加賀市）

金
沢
市

再生可能エネルギーの地産地消が進んだエネルギー自立都市

- ① 積極的な再生可能エネルギーの導入と省エネの促進
- ② エネルギー・マネジメント・システムの構築と地域のエネルギー需給最適
- ③ 市民のエネルギー意識の向上とエネルギーを賢く使うまちづくりの推進

加
賀
市

「加賀市スマートシティ宣言」 基本理念：人間中心の未来社会の実現

スマートシティ加賀 3つの戦略

- 1 デジタルファースト～データ駆動型のまちづくり～
- 2 クリエイティブ～創造的なまちづくり～
- 3 スマートシチズン～市民との共創によるまちづくり～

都市計画マスタープラン
策定に際し
本学教員が主導



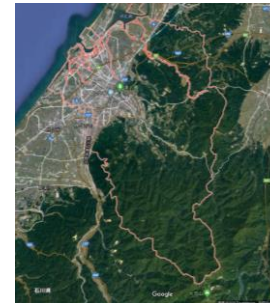
新学園・研究開発都市構想

金沢大学を中核とする新学園・研究開発都市構想（検討中）

学都「石川」を基盤に
金沢市の山間エリアを切り拓き世界的研究拠点を形成

【構想】

- ・金沢市内の山間地域を有効活用し、大学群の人材育成機能と研究機関・企業等の研究開発機能を集約させ、新学術・研究開発エリアを構築
- ・観光・文化都市「金沢」の魅力を活用
- ・空港・モノレールを含めた交通網の整備により、人、モノの主要導線を再構築し基幹ネットワークを強化



（金沢市航空写真）

社会変革人材の養成から地方における新産業創出へ

人材の地産地消

地方への人口分散と
地方の中核都市への人口集積



地方国立大学の新たな挑戦

ダイバーシティ環境創出の下、人材の集積を図り、地方から社会変革を先導する
イノベーション人材の育成と研究開発により新たな地方産業を創出

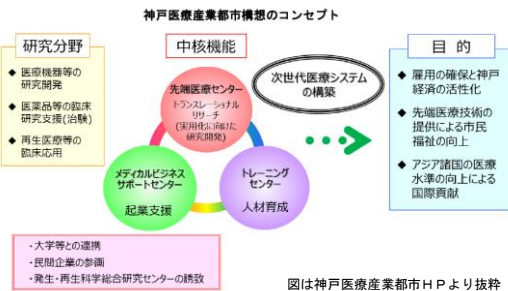


地方国立大学の機能強化に向けた先導的な取組

医療特区（神戸大学）

【ポートアイランド地区「神戸医療産業都市構想（神戸市）」への参画】

- ・ 特区内の企業と連携した国産手術支援ロボット開発と実証実験
- ・ 特区内の病院と連携した先進的外科的治療の提供
- ・ スパコン「京」を活用した社会人を含む人材育成
- ・ 次世代バイオ医薬品等の研究開発と国際ビジネスモデルの展開，人材育成の実施
- ・ 国際外国人患者受入窓口IPRDの設置
- ・ 産官学の「メディカルクラスター連携推進委員会」に参画し地域活性化に貢献

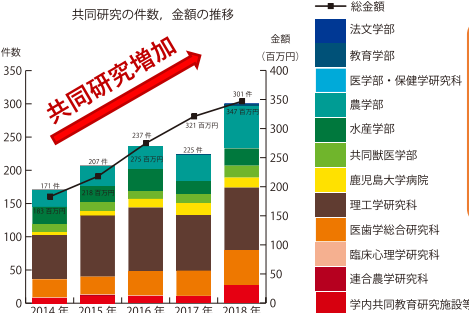


図は神戸医療産業都市HPより抜粋

社会共創（鹿児島大学）



産学官連携による南九州・南西諸島域の地域課題解決と研究成果を活用した社会実装による地方創生の推進
➤ 社会共創プラットフォームとして「産学・地域共創センター」を設置（2018年度）



- 【産学・地域共創センターの主な活動】
1. 地域課題の発掘・収集・集約
 2. 地域企業の研究・開発力を強化
 3. 大学研究成果の展開，社会実装の推進
 4. 学内・学外連携強化

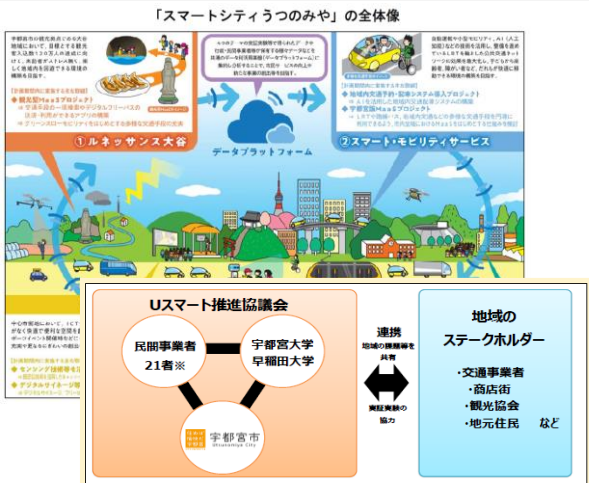
沖永良部島
IoT農業生産管理実証ラボ

徳之島
IoT 先端農業実証ラボ

鹿児島
地域産品高度活用実証ラボ

スマートシティ（宇都宮大学）

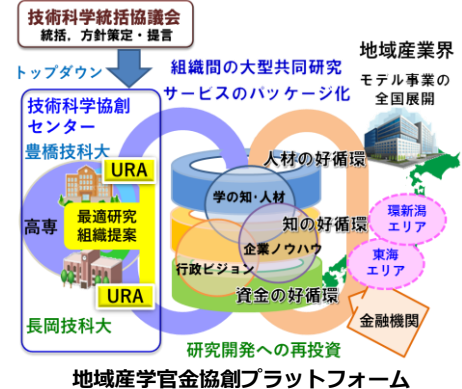
- ・ 宇都宮大学が民間事業者等代表であるUスマート推進協議会の取組が，国土交通省スマートシティモデル事業の先行モデルプロジェクトに選定された。
- ・ 関係者と協働しプロジェクトを実施
観光地における渋滞緩和と回遊性向上
【ルネッサンス大谷】
公共交通の移動時間の短縮と利便性の向上
【スマート・モビリティサービス】
賑わいのある中心市街地の形成
【スマート・ホスピタリティ】



大学間連携,コンソーシアム（豊橋技術科学大学・長岡技術科学大学）

技科大・高専連携に基づく地域産学官金協創プラットフォーム構築（国立大学経営改革促進事業）

- ・ 大学・高専による産学連携
研究シーズDB整備
DBに基づく最適研究組織の提案
共同拠出型，コンソ型共同研究
地域産業活性化
- ・ 大学保有資源を活用した地域人材育成
保有資源のパッケージ化
技術相談，社内向け技術教育
お試し研究，etc.
会員組織を通じた情報収集



ポストコロナを見据えた 地方国立大学の機能強化に向けた取組

②イノベーションの創出





機能強化に向けた金沢大学の先導的な取組

金沢大学における中長期的ビジョン《知・人材・資源の流動・集積》の下、計画的にスピード感のある研究力強化に資する大学改革を展開

テクノロジーの応用・社会実装

ナノ生命科学研究所【平成29年度設置】



中規模の地方
総合大学で唯一

世界トップレベル研究拠点プログラムH29採択

新学問領域「ナノプローブ生命科学」の創出を目指す

本学が誇る世界最先端のバイオSPM（走査型プローブ顕微鏡）技術と超分子化学技術を融合・発展させ、「がん」を含む様々な生命現象の根本的な理解を目指す。

欧州拠点：Imperial College London, London, UK

北米拠点：The University of British Columbia, Vancouver, Canada

自動運転システムの開発・実装

国内大学初 市街地公道走行実験開始

世界的テクノロジーの開発・応用により
地域課題の解決につなげる

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）
第2期「自動運転（システムとサービスの拡張）」採択

その他、未来社会を担う技術の研究開発
自立型社会システムの構築に資する
研究開発・実証実験を推進



社会共創

石川県との共同による事業展開

地域イノベーション・エコシステム形成プログラム

「楽しく安全、振動発電を用いた電池フリー無線センサの事業化とその応用展開」

機械や橋梁の微細な「振動」で発電することが出来る「磁歪式（じわいしき）振動発電技術」を用い、その市場化とビジネスモデル確立により地域創生を推進。



連携講座・共同研究講座の開講

民間企業及び研究機関等の利益に配慮した新たな連携により
教育研究の一層の充実や研究交流を促進

- ・2018.10に自然科学研究科内に「次世代セルロース科学連携講座」
- ・2019.7に同研究科内に「先端科学技術共同研究講座」を設置
- ・2020.5現在 **連携講座は全学で13講座**を設置、**共同研究講座は3講座**を設置

企業からの出資による産学連携共同研究環境の整備

共同研究講座をベースとする産学連携研究から派生した**大規模な産学連携研究棟の整備**が進行中

地方国立大学の新たな挑戦

企業との連携を強化し、企業からの投資を呼び込み、企業との協働による研究開発、
企業・社会への社会実装というイノベーションエコシステムを構築・展開する



機能強化に向けた金沢大学の先導的な取組

分野融合型研究展開

新学術創成研究機構【平成27年度設置】

**新しい学問分野・学問領域の創成につながる
融合型研究を推進
学際性・総合性・国際性を有する若手研究者を育成**

優位性のある研究プロジェクトを集約し
“学問分野融合型研究の進展”
“国際頭脳循環の継続的拡充”を一体的に推進



WPIの採択



NanoMaRi

**ナノマテリアル研究所
【H30】**

新規機能性ナノ材料の
開発と実用化を目指す

**設計製造技術研究所
【R1】**

オンデマンド“モノづくり”を支える

次世代スマート設計
生産システムを構築

がん進展制御研究コア		がん進展機構の本態解明の研究 革新的 がん治療の開発
先進がんモデル 研究ユニット	がん幹細胞 研究ユニット	トップ10%ジャーナル掲載率（分野） 2016年 49.2% ⇒ 2017年 65.9% 参考 国立がん研究センター2017年 46.7%
がん微小環境 研究ユニット	がん分子標的 探索応用ユニット	
革新的統合バイオ研究コア		次世代バイオテクノロジーの研究開発 その応用等による健康長寿・循環型 社会の構築に資する研究開発
高速バイオAFM 応用研究ユニット	セルバイオミクス ユニット	"Atomic Force Microscopy"にカテゴライズされる論文 論文数 日本1位 世界6位 被引用数 14.1世界トップクラス
創薬分子プローブ 研究ユニット	先端ヘルスケア サイエンスユニット	
栄養・代謝 研究ユニット	数理神経科学 ユニット	
未来社会創造研究コア		未来社会を担う技術の研究開発 自立型社会システムの構築に資する 研究開発・実証実験
文化遺産国際協力 ネットワーク	機能性超分子 マテリアルユニット	自動運転システム 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第2期 「自動運転（システムとサービスの拡張）」に採択
自動運転ユニット	バイオインベティブ デザインユニット	
再生可能エネルギー ユニット	バイオスフィア ユニット	

頭脳循環

頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム

慢性炎症と線維化をきたす生体ネットワークの解明とその制御の国際的研究者育成
国際ネットワークを活用した人的資源の蓄積・循環による先導的な研究者を育成

ハーバード大学
ジョスリン糖尿病センター

ハーバード大学
プリガムアンドウィメンズ病院

シドニー大学
ジョージ国際保健研究所

・先進予防医学共同専攻
・先進予防医学研究センター
・新学術創成研究科



金沢大学
KANAZAWA
UNIVERSITY

・WHOコラボレーティングセンター
・大学の世界展開力強化事業（日露
ロシア8機関

細胞分子基盤

1. 慢性炎症-線維化の 細胞分子基盤の解明

- ◆ 新規骨髄由来線維化細胞の役割
- ◆ 細胞遊走・分化制御機構
- ◆ コラーゲン線維産生機構
- ◆ 新規骨髄由来線維化細胞同定

臨床病理・疫学

2. ヒト疾患における 臨床病理と病態解明

- ◆ 腎・心・肝・脾臓・脂肪・肺・皮膚などのヒト臨床サンプル解析
- ◆ メタゲノム解析
- ◆ バイオマーカー探索
- ◆ コホート構築

診断・治療法

3. 新規診断方法・ 治療法開発など 先端医療開発

- ◆ コホートでの国際比較
- ◆ バイオマーカー開発（シーズの絞り込み）
- ◆ マウスへの薬剤投与・中和抗体投与実験

■その他、多数のプログラムを通して頭脳循環による若手研究者育成を実践

- ◎エアロゾルが引き起こす大気・海洋・生態系反応に関する国際研究拠点形成
- ◎革新的機能性超分子材料開発に向けた日米欧加研究ネットワークの戦略的構築 など

地方国立大学の新たな挑戦

**組織的な研究展開を核として、持続的なイノベーションの担い手となる
優れた研究人材の育成拠点としての機能強化を図る**



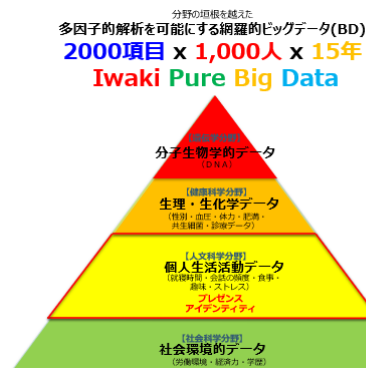
地方国立大学の機能強化に向けた先導的な取組

イノベーションハブ（弘前大学）

- ・青森県の短命打開のため、弘前大学は青森県・弘前市等と連携し、2005年から継続的に、弘前市岩木地区住民の健康情報を取得。
- ・2013年には国のCOIプロジェクトに採択され、健康情報「超多項目ビッグデータ」を活用した予測法・予防法開発やビジネス化を推進。

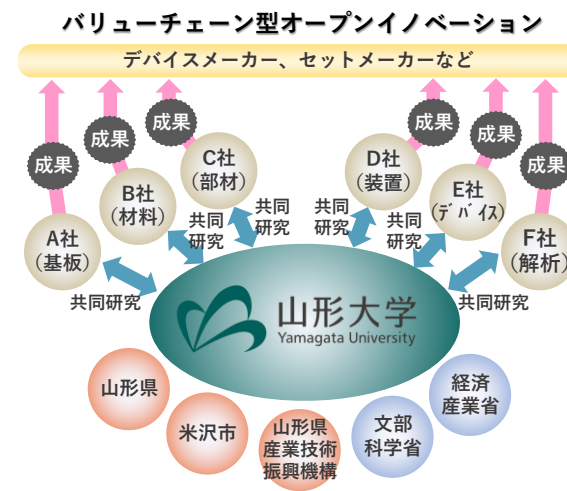
＜民間資金の活用・共同研究の実施＞

- ・41社（2020年4月現在）の企業が参画、民間投資（年間約4億円）を誘引（14の共同研究講座）
- ・認知症・生活習慣病等に関するAI予測サービスや健康増進サービス・製品の開発等を実施
- ・第1回日本オープンイノベーション大賞 内閣総理大臣賞（2019年3月）



エレクトロニクスハブ（山形大学）

- ・山形大学が強みとする有機材料システムに関する技術をコアに、ものづくりの上流から下流までを網羅した「バリューチェーン型オープンイノベーション」を推進。
- ・企業ニーズファーストで、自主独立採算運営によりフレキシブル有機エレクトロニクス技術の早期実用化を目指す「山形大学フレキシブルエレクトロニクス産学連携コンソーシアム(YU-FLEC)」を始めとして、有機材料と印刷、3Dプリンタやインクジェット等のプロセス技術を組み合わせた次世代やわらかものづくりでの産業への貢献・イノベーション創出を目指す。



カーボンナノファイバー（信州大学）

アクア・イノベーション拠点（文部科学省 COI事業の中核拠点）

【目指すビジョン】ナノカーボン材料による水処理技術の革新と水循環エンジニアリングの高度化により、全ての人が安全な水を必要なだけ利用できる社会の実現

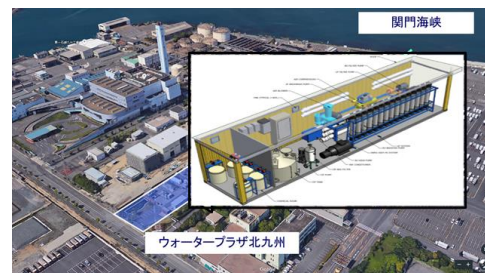
【研究開発目標】

防汚性に優れたナノカーボン複合分離膜を用いた革新的な造水・水循環システム

【社会実装の推進】

- ・海水淡水化システム
- ・産業分野（超純水システム等）への展開
- ・下水排水の再利用システム
- ・浄水器及び簡易浄水システム

【地域経済貢献】地域特性、開発資源を活用

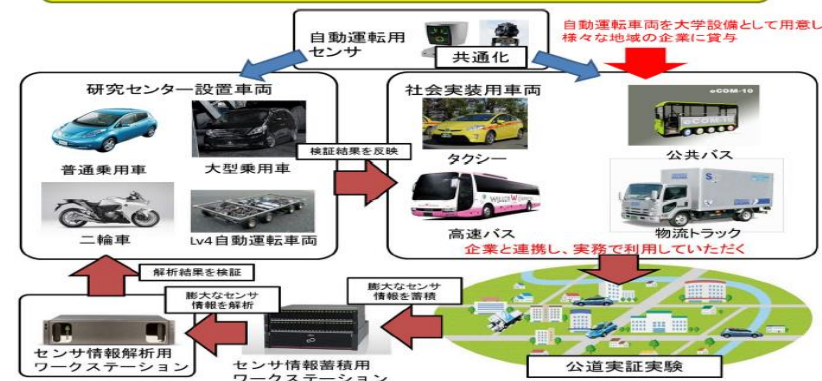


日立製作所、東レ、信州大学が中心となって北九州で実証試験を実施中

テクノロジーの応用・社会実装（群馬大学）

群馬大学の完全自律型自動運転の普及アプローチ

地域・路線を限定し、営業車両からデータ収集（市街地・過疎地域・観光地・高速道路）



類似の地域に同様のプロセスを展開

ポストコロナを見据えた 地方国立大学の機能強化に向けた取組

③人材育成





機能強化に向けた金沢大学の先導的な取組

金沢大学における中長期的ビジョン《知・人材・資源の流動・集積》の下、計画的にスピード感のある教育改革を展開

分野融合型教育

学域・学類制の導入【H20年度】

長年の学部・学科編成による**組織の硬直化**により
→ 学際化や異分野融合への機動的対応が困難
→ 急速に変化する学問の状況や社会のニーズに対応できない

大学そのものの制度、
組織の在り方を検討

教育組織と研究組織を分離し、
新しい発想のもとで教育体制を構築

8学部を**3学域・16学類**と**3研究域・14系**に改組

人間社会学域 **理工学域** **医薬保健学域**

学問領域を越えた研究と地域への実践的な関わりを重視した
教育プログラムを構築

「**地域創造学類**」：地域再生を実現する地域づくりのリーダーを育成
※ 時代に先駆け12年前に創設
「**国際学類**」：国際社会で活躍できるグローバル人材を育成
＜ さらにH30年度には3学域・17学類に再編 ＞

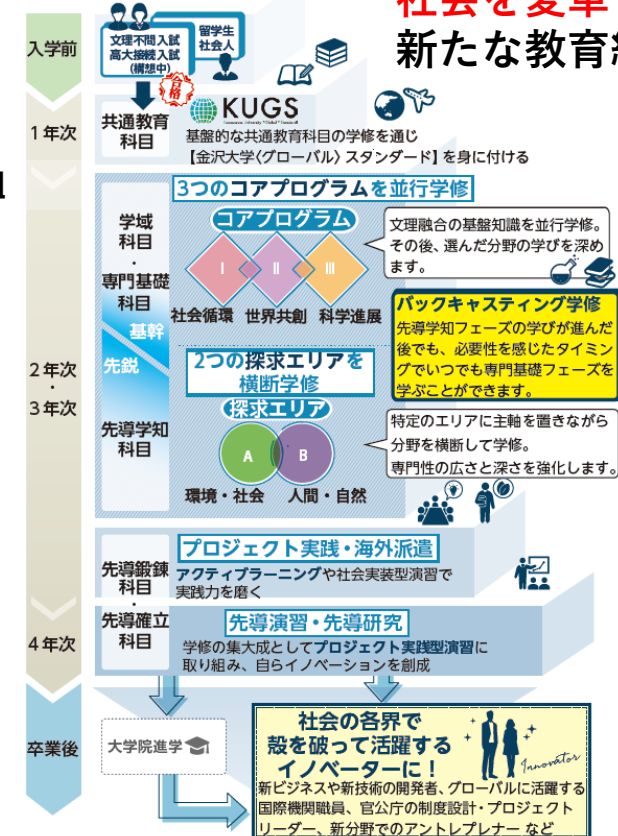
新学術創成研究科【平成30年度設置】

独創的な発想と卓越した研究力により、
科学技術イノベーションの基盤を生み出し、
社会実装までを見据えて
課題解決に取り組むことのできる**“高度専門人材”**を育成
**金沢大学・北陸先端科学技術大学院大学による
融合科学共同専攻を創設**
我が国で唯一の博士（融合科学）の学位
＜石川県内の企業（産業界）・自治体等とも連携した教育を推進＞

文理融合型の新学域「融合学域」創設【R3年度新設予定】

※名称は仮称

教育プログラムと育成する人材像



社会を変革する人材を養成する 新たな教育組織の創設を計画

芯の通った文理融合型
教育を通じた価値創出

イノベーションの創成
力を有する社会変革
人材の養成に向け、
新たな学域の設置を申請

新設学域：**融合学域**
新設学類：**先導科学類**
〔収容定員 270名〕
入学定員 55名
編入学定員 25名

〔うち編入学定員10名を留学生・
社会人等を対象に純増〕
〔更なる入学定員増を計画中〕

本学類においては
**アントレプレナーシップ
関連科目（12単位）を必修化**

STEAM教育

金沢美術工芸大学との連携・協働

STEAM教育《デザイン、感性要素の加味型》
金沢大学の工学系、医学系学生と
金沢美術工芸大学生が交流し
シンポジウム・セミナー等を実施
平成23年両大学相互の連携を強化し、教育・研究活動の
一層の発展を目指すことを目的とし、包括協定を締結。
教職員及び学生の交流、協働の研究・セミナー等を実施。
体験型教育により異分野をつなげ、
課題解決力と創造力を持ち**新たな時代をデザイン**できる
STEAM人材を養成

基幹教育

STEAM教育《Liberal Arts, 文理横断型》
本学が育成する人材の具体的な姿を
「金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）」
として策定。

Standard 1	自己の立ち位置を知る	科学的世界観	批判的思考力	歴史的/地政学的洞察力	等
Standard 2	自己を知り、自己を鍛える	フィロソフィー	アイデンティティ	心身の成長	等
Standard 3	考え・価値観を表現する	論理的構成力	物語力	言語表現力	創造的形象力 等
Standard 4	世界とつながる	共感・歴史観	異文化理解	国際コミュニケーション力	等
Standard 5	未来の課題に取り組む	創造力	情報分析力	総合判断力	蓋然性 持続可能性 等

地方国立大学の新たな挑戦

中核的教育機関として持続的なイノベーション創出を担う
STEAM人材の育成を先導する



機能強化に向けた金沢大学の先導的な取組

グローバル化

スーパーグローバル大学創成支援事業

徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する
人材育成と金沢大学ブランドの確立



リカレント教育

能登里山里海SDGsマイスター育成プログラム

珠洲市と連携し、日本で最も過疎高齢化が進む

**能登地域で、地域資源を活かした
若いアントレプレナーを養成**
里山里海の世界価値を評価し、
世界の課題である**地域の持続可能性を**
人材養成で補完

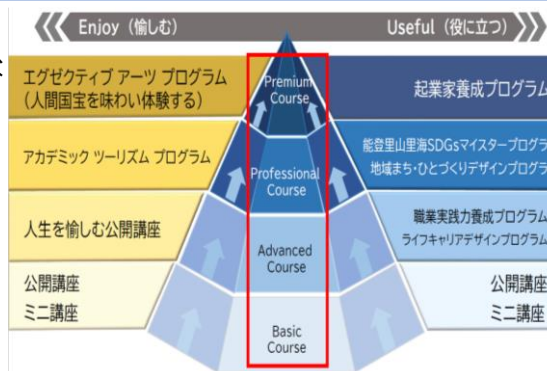


- ・過疎高齢化の
地域課題の解決
- ・地方創生への寄与

第7回地域産業支援
プログラム表彰事業
文部科学大臣賞
（イノベーション
ネットアワード2018）

金沢大学オープンアカデミー（KOA）

2040年に向けた新たな
学びの構築に向け、
**広く社会ニーズに対応
した付加価値の高い
学習事業を産業界・
地域住民・自治体等と
連携し、新たに構築**



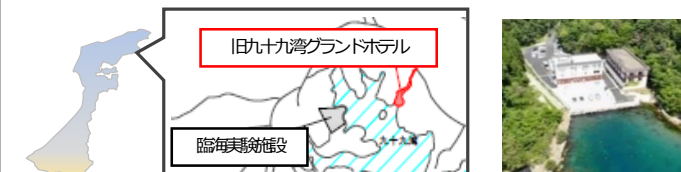
地域ニーズに即した教育

地域に根差した教育研究施設整備

能登海洋水産センターを設置

能登町から、九十九湾岸の「旧九十九湾グランドホテル」
建物及び敷地の整備・寄附の支援を受け、
新たに“能登海洋水産センター”を整備
能登町等の地域が求める以下の人材を養成

- ・地域に密着した新技術・新産業の創出人材
- ・海洋生物資源を支える先進的な基礎研究人材
- ・能登町の新たな産業となりうる海洋資源の開発人材



入試制度改革

多様な入試制度の導入

文系・理系一括入試（H30年度入学者選抜～）

大学に入学後、幅広い学問分野に触れ、理解を深め
ながら専門分野の選択が可能に。

KUGS特別入試（R3年度入学者選抜～）

志願者の能力・資質・意欲を多面的・総合的に評価

超然特別入試（R3年度入学者選抜～）

A-lympiad選抜、超然文学選抜

地方国立大学の新たな挑戦

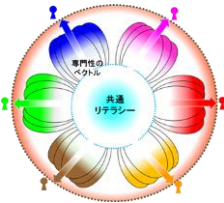
**教育の中核的拠点として、年齢・国籍を問わず多様な学生が集うダイバーシティ環境下で、
地方創生・地域の活性化を担うグローバル人材の育成を先導する**



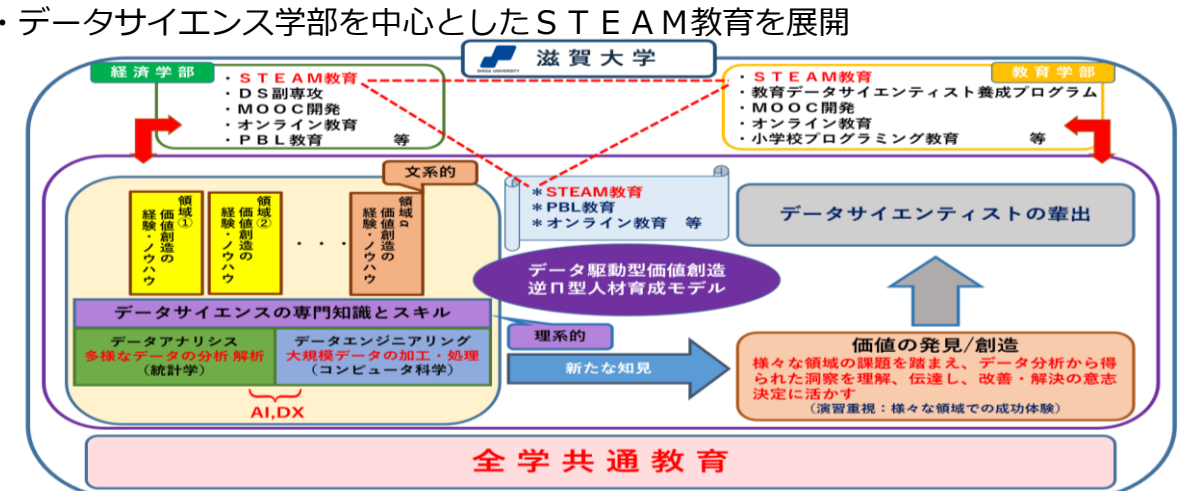
地方国立大学の機能強化に向けた先導的な取組

文理融合教育（新潟大学）

- 創生学部による文理を越えた課題発見・課題解決の学修
「到達目標創生型」学位プログラムにより「自己創造型学修者」を育成
学生が自らのキャリア形成をイメージし、自らが定めた課題と目標を持って学修するプログラムを提供し、グローバル化した社会において将来的に生じうる課題の解決ができる人材を育成する。
- ・「課題発見・課題解決能力」の育成を重視したカリキュラム
初年次の学外学修（フィールドスタディーズ）から卒業まで一貫したカリキュラム。
→文部科学省「大学等におけるインターンシップ表彰」で最優秀賞（2020）
- ・文理にとらわれない「22の領域学修科目パッケージ」を学生が選択
学生の関心に合わせて、各学部の専門授業科目群（領域学修科目パッケージ）を選択。他領域を学ぶ学生たちとの交流を通じて、ものごとを多角的にとらえる力を養成。
- ・少人数教育と幅広い分野の教員による手厚いサポート



STEAM教育（滋賀大学）



SDGs教育（岡山大学）

- 学士教育課程：世界で活躍できるSDGs実践人の育成
 - ・新入生SDGsがテーマ科目・起業家精神養成プログラム
 - ・実践型社会連携教育科目・県北地域教育プログラムなど多様な教養科目・専門科目を通じた人材育成
- SDGsを通じた地域・世界とのパートナーシップ
 - ・世界1-サミット（One Young World Summit）への派遣
 - ・米商務省CLSプログラムなど留学生へのSDGs学習の提供
 - ・「岡山大学SDGsアンバサダー」任命制度を発足（約130名を任命して学生の自主的活動支援）
 - ・地域の高校生へのSDGs学習機会の提供（2組が第9回キャリア教育推進連携教育表彰）



グローバル化（愛知教育大学）

- 【目的】
日本語教育を介して、世界の社会システムで活躍出来る「日本型グローバル人材」の育成
- 【対象別の取組】
- 児童生徒支援…6ヶ国語の教材テキスト作成、学習サポート、親子日本語教室等
 - 医教連携…外国人医療従事者への支援等
 - 就労支援…連携先企業への協力等
 - 指導者育成
 - ・学部「日本語教育選修」設置
 - ・「外国人児童生徒教育」必修化
 - ・大学院「外国人児童生徒支援系」設置
 - ・社会貢献「AUE日本語指導講習」ボランティア派遣等



ポストコロナを見据えた 地方国立大学の機能強化に向けた取組

④戦略的な経営・運営改革





機能強化に向けた金沢大学の先導的な取組

金沢大学における中長期的ビジョン《知・人材・資源の流動・集積》の下、計画的にスピード感のあるマネジメント改革を展開

意思決定の迅速化

学長のリーダーシップによる強靱なガバナンス

YAMAZAKI プランの策定

大学改革の具体化に向け、平成26年度、平成28年度、平成30年度に向こう数年間の行動計画としてYAMAZAKIプランを策定。

大学を取り巻く状況の変化に鑑み、同プランを全面的に見直し、新たに「YAMAZAKIプラン2020」を策定予定



大学改革推進委員会

大学改革・機能強化を集中的に審議する機関として設置
構成員：学長、理事、研究域長等
全学的意思決定が的確かつ迅速化

組織マネジメント

部局運営目標と達成度に基づく資金配分

期首に学長がヒアリングを行った上で、各部局長の下、**当該年度の運営目標を設定**
期末に部局長が目標の達成度の自己評価を行った上で、学長が評価
その結果を次年度の戦略経費の配分に反映

教員の採用・配置・評価

教員配置計画

ー トップダウン・ボトムアップによる多数の研究グループ形成ー

学長の下、**大学戦略に則した部局毎の教員配置計画**を策定
計画的な教員人事（採用・昇任等）を実現

先導的な人事給与制度の導入

大学戦略ポスト

【全学戦略分】教育研究組織整備 時限付 H30年度 10名 R1年度 7名

【研究域強化分】域附属研究センター 時限付 H30年度 16名 R1年度 16名

卓越研究員

H28年度 2名 H29年度 6名 H30年度 4名 R1年度 4名

リサーチプロフェッサー制度

研究専念のための特別措置 若手型：17名 招へい型：6名
登用型：8名 拠点型：25名

若手PI (Principal Investigator)

若手PI (主任研究者) 制度 16名

クロスアポイントメント制度

8名

年俸制

旧年俸制:174名 新年俸制:59名

教員評価制度・給与処遇への本格的な反映 (国立大学初)

教員評価を実施し、給与処遇に反映 降号や降任の制度も導入

全教員（年俸制・月給制とも）対象

テニユア・トラック制度

R2年5月時点 適用者90名

外部意見の活用

ステークホルダー協議会

ステークホルダーである学生、保護者、企業、自治体等が一堂に会するステークホルダー協議会を開催し、現況を報告。また、参加者から示された意見を踏まえ、状況を分析し、次期の計画に反映。



病院マネジメント

元気がでる附属病院経営改革プラン2018

附属病院の経営状況や今後の経営見通しについて、学外有識者を含め分析。同経営改革プランに沿って、設備投資を含め、経営改善方策を展開。

診療施設・設備の計画的な整備

ハイブリッド手術室を石川県で初めて導入。
新中央診療棟の整備を計画中。

ICTによる関連病院間での診療データの共有

SS-MIX2ストレージ (SS-MIX: Standardized Structured Medical Information eXchange) を活用。
県内の医療情報ネットワークを構築・運用。

地方国立大学の新たな挑戦

社会変革・地方創生に向けた研究展開・人材育成を持続的に行うため、学長のリーダーシップの下、中長期的な視点により、これまでの枠組みに捉われない戦略的かつ大胆な経営・運営を展開する



地方国立大学の機能強化に向けた先導的な取組

総合大学マネジメント（筑波大学）

ガバナンス改革

- ・外部人材の活用（経営協議会等）
- ・ヒト、モノ、カネの戦略的配分

人事給与システム改革

- ・混合給与、教員抜擢昇任人事制度など柔軟な人事制度の導入
- ・ポイント制による戦略的な配置

財務基盤の強化

- ・外部資金獲得、収益的事業等の戦略策定及び学内予算への反映
- ・自己収入の確保

- ◆ 学外の声を大学経営に一層反映
- ✓ 大学経営改革室の新設
- ✓ 外部理事（産業界）の増員

- ◆ 戦略的教員配置の拡充・加速
- ◆ 若手人材採用促進方策の実施

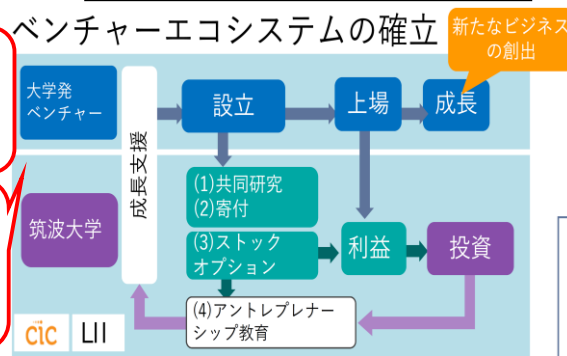
- ◆ イノベーション創出促進
- ✓ ベンチャーエコシステムの確立

世界展開研究拠点形成機構



学内資源の
戦略的活用
システム

資金循環・
財務 基盤
強化システ
ム



総合大学マネジメント（広島大学）

- ・目標達成型重要業績指標AKPI®を活用したマネジメント

■ 教育・研究実績等のモニタリング

毎年度の実績値を分析・可視化し、これらのモニタリング結果を活用して以下のような取組を実施

■ 教員の戦略的配置

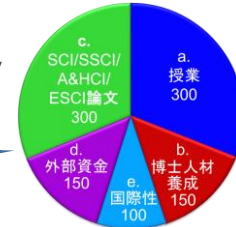
教員人事の全学一元化の下、AKPI®値等を用い、教育研究組織の枠を超えた全学的視点からの戦略的・計画的な人員配置を実施

■ 予算の戦略的配分

AKPI®値等のデータを元に、成果に基づく予算配分を実施

AKPI®の指標及び目標値
(教員一人あたり) (目標値: 1,000Pt)

AKPI®:
Achievement-
motivated Key
Performance
Indicator



組織マネジメント（小樽商科大学・帯広畜産大学・北見工業大学）

- ・「北海道国立大学機構」設置による経営改革の推進

2022年4月に経営統合して商学・農学・工学の実学を担う三大学の教育研究機能を強化し、教育効果の高い遠隔教育手法による文理融合教育プログラムの実践、産学官連携オープンイノベーションの推進等により、三大学一体で北海道経済・産業の発展に貢献。

社会に開かれた経営体制により、社会の要請に的確に対応できる法人運営を実現。

【経営改革のポイント】

- ・理事長は学外者とし、原則、大学の長は兼ねない。
- ・理事長は経営に長けているだけでなく教育研究活動の充実にも理解を有する者。
- ・複数の外部有識者で構成する理事長諮問組織の設置。
- ・三大学の事務体制が肥大化しないよう再編し、事務業務の集約化・合理化等を徹底。

意思決定の迅速化（名古屋工業大学）

- ・運営会議と総合戦略本部の機能の明確化・分離を図ることにより、新たな取組の実施に際して、学長のトップダウンによる迅速な意思決定が可能な体制を構築している。また、的確な判断を行うため、総合戦略本部にURA室等の専門組織の長等を参画させている。

＜重要な意思決定の例＞

- ・名古屋工業大学版若手人材支援制度の創設
- ・ウーロンゴン大学との国際連携情報学専攻の設置
- ・各教育研究センターの統合・廃止の決定
- ・産学連携の強化及び連携窓口の一本化を図った産学官金連携機構の設置

機能分化による迅速な意思決定



イノベーションの創出につながる
教育・研究改革の早期実現！

地方国立大学のさらなる機能強化の必要性

● ポストコロナを見据えた**地方創生**，**イノベーション**を担う**人材育成**に向けて

- ㊦ 高水準の研究力と地域資源の独自性を基盤に，“**サイバー空間での集中化**”，**オンライン教育の利点**を活用して，**対面授業・体験型授業併用型教育**への大胆な改変，**自律的な学びを支え導く新たな教育法**へ。
- ㊦ 新たな知の創出には，人間力にも通ずる**洞察力・分析力・判断力**に加え，**文理融合の発想力育成**，**アントレプレナーシップ教育**による課題解決能力を早期に醸成。
そのための組織的なアクティブラーニング手法を重視した**STEAM人材育成教育**のさらなる強化。

● ポストコロナを見据え**地方創生**，**東京一極集中の是正**を指向する「**知**」「**人材**」「**資源**」の**流動・集積**に向けて

- ㊦ 地方創生を担う大学，自治体，企業が結集して，**強靱なインフラ・レジリエンス**に配慮した中核都市を形成。**スマートシティ構想**や**学園・研究開発都市構想**等の大胆な発想で，大掛かりな地方創生の仕掛けを展開。
その中核を担う地方国立大学は，年齢や国籍を問わず多様な素質，高い志をもった人々が集う**ダイバーシティ環境**下で，**地方創生と社会変革**，**イノベーションを先導する人材**を育成，輩出。
- ㊦ 新たな「**知**」「**人材**」「**資本**」の潮流を生み出す源泉は，高度な水準の研究力にあるとの認識の下，国内外**大学間の連携強化**，特色ある資源を基盤に**研究力強化を加速**。
あらゆる業種，分野の企業・組織との**産学連携**を強化し，**企業・自治体等**からの**投資**，企業との協働による**研究開発**，**地域・社会実装**の**イノベーションエコシステム**を構築・展開。



我が国の持続的な発展と地方創生に向け 早急な支援と規制緩和を

- 地方創生人材，イノベーション創出人材の拡大に向けた地方国立大学の定員増加
 - ・ **学生定員管理の弾力化**（特に留学生枠・社会人枠等）
 - ・ **大学院学生定員管理の柔軟化** など
- 自律的な経営環境の実現に向けた財政支援や規制緩和
 - ・ **授業料**の設定に係る **規制緩和**
 - ・ 将来的な施設設備等の新設・再整備を用途とする **剰余金の繰越制度の簡素化**
 - ・ 余裕**資金の運用**に係る **規制緩和**
 - ・ **長期借入，債券発行の要件緩和**
 - ・ **土地活用**の **規制緩和**
 - ・ 産業界等から投資を呼び込むための **研究開発税制**のさらなる **拡充**
 - ・ 産業界からの教育（**人材育成に係る奨学金等**）資金提供に対する **免税措置**
 - ・ 個人寄附の税額控除対象範囲の拡大
- その他
 - ・ 留学生の増加及び地域定着に向けた就労ビザ取得に係る規制緩和
 - ・ 海外の大学とのジョイントディグリーに係る基準の緩和
 - ・ 競争的資金の公募，報告の簡素化